

## 特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人

伊東 忠彦

様

あて名

〒 150-6032

日本国東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号  
恵比寿ガーデンプレイスタワー32階PCT  
国際調査機関の見解書  
(法施行規則第40条の2)  
[PCT規則43の2.1]

16.9.-1

発送日  
(日.月.年)

31.8.2004

出願人又は代理人  
の書類記号

NU04002PCT--

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/J P 2004/010619

国際出願日

(日.月.年) 26.07.2004

優先日

(日.月.年) 24.07.2003

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl. A61B6/03

出願人 (氏名又は名称)

学校法人 日本大学

## 1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

## 2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

## 3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

12.08.2004

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

安田 明央

2W

9309

電話番号 03-3581-1101 内線 3290

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

## 第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎として作成した。  
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表  
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面  
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる  
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された  
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1 - 5	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1 - 5	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1 - 5	有
	請求の範囲		無

## 2. 文献及び説明

## 請求の範囲 1 - 5

文献1 : JP 2-118887 A (ゼネラル・エレクトリック・カンパニイ)  
 1990.05.07 & DE 68925317 C  
 & EP 354026 A2 & EP 354026 A3  
 & US 4903202 A & US 4905148 A

文献2 : JP 63-118990 A (ゼネラル・エレクトリック・カンパニイ)  
 1988.05.23 & DE 3751300 C  
 & EP 261447 A2 & US 4791567 A

文献3 : WO 2002/043001 A1 (学校法人日本大学)  
 2002.05.30 & US 2003/0002724 A1

文献1及び2には、ブロックで構成される3次元対象物から得られた3次元CTデータを処理する画像処理方法において、前記3次元CTデータにおける連続性の開始点を、前記ブロック内に設定する開始点設定手順と、前記開始点設定手順で設定された開始点との連続性を有する前記3次元CTデータに基づいて、3次元CTデータを検出する連続性検出手段と、前記連続性検出手段で検出された連続性を有する3次元CTデータに基づいて3次元CTデータを再構成する画像処理方法が記載されており、連続性の検出を面単位及び点単位で行うことも記載されている。文献1にはまた、上記3次元対象物が複数のブロックで構成されることも記載されている。文献1にはさらに、上記3次元対象物が関節部分であることも記載されており、3次元CTデータを再構成する画像処理方法において、3次元対象物を下顎頭、下顎窩とすることは例えば文献3に記載されるように周知であるから、文献1、2記載の画像処理方法において、3次元対象物を下顎頭、下顎窩とすることは当業者が容易に想到しうることである。